

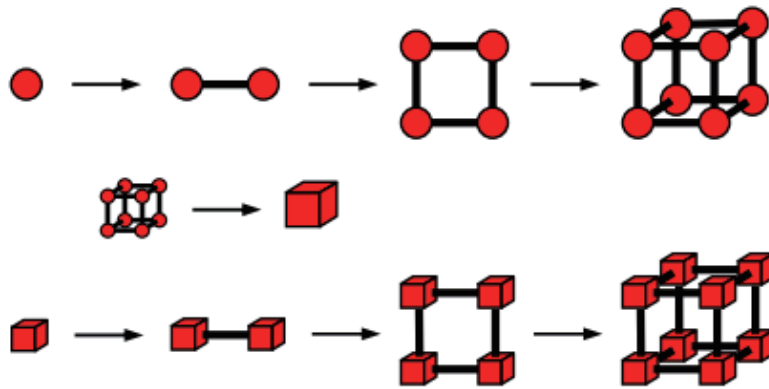
■言語と思考能力を高める画期的な幼児教育プロジェクト

◆「テーマ」から認識（数える・大きい小さい・表現する・人間関係・環境等）を教える幼児教育法

知識の獲得は、暗記やつめ込みでは限界があることを多くの教育者が指摘しています。「頭の大きい人は頭が良い」と知能を量的に考えた時代は、知識を大量に記憶することが重要な能力でしたが、最近の心理学や脳科学は、階段状の積み上げではなくて、相互的な関係、らせん状的な発展、特に環境との関連から獲得される認知行為が注目されています。

下図は動的心理学理論のモデル図ですが、ある知的な認知行為は自ら刺激を吸収して拡大するのではなくて、環境が提供する知識（刺激）と関連しながら発展し、ある段階に到達すると質的に変化し、さらにそれらが相互関連的に発展すると考えます。

プロジェクトはこれらの考え方を、実践的に幼児教育法として完成させました。



〈フィッシャーとローズ（1998年）が提唱した動的心理学の「発展」〉

●テーマを子どもの目の前に見せることで、子どもの知的関心を引き寄せます。

ピラミーデの最大の特徴は、テーマを設定した遊びを基本とすることです。従来のように認知的な目標を決めて、そこに到達させようとする保育ではこぼれる子どもが出ます。しかし、ピラミーデのように「テーマ」を設定した遊びの場合は、子どもの理解度や興味によって子どもの遊びが異なり、どの子どもも十分に遊ぶことができます。こうした子どもそれぞれの遊びを交通整理していくのが、保育者の技能です。選択の方法を支援したり、遊び方にヒントを与えたり、あるいは口を出さずに見守る場合もあるでしょう。



〈ドイツのピラミーデ保育：プロジェクトのテーマ「仕事」〉

●テーマを子どもの目の前に見せることで、子どもの知的関心を引き寄せます。

ピラミーデは、1年間に12のテーマを設定します。つまり1ヶ月にひとつのテーマが用意され、ひとつのテーマは約3～5週間かけて進められます。保育者は子どもたちをテーマに沿って導き、自主性を引き出すよう働きかける時間と、子どもが中心となる遊びの時間をうまく融合させることが大切です。

プロジェクト保育のテーマは、子どもたちの暮らしや生活体験など身近なことからを基盤に考えられています。なおかつ“子どもの発達領域”=8つの発達領域（①運動 ②創造 ③知覚 ④言葉 ⑤個性 ⑥社会性を持った情緒 ⑦考える力 ⑧時間と空間の理解）に重点をおいて考えられ、それぞれのテーマにねらいとする領域をあてはめ

ます。例えば、“家庭”のテーマで発達する領域は“言葉”です。時間の理解を発達させるテーマは“秋”です。年間のテーマと発達領域をバランスよく構成することが大切です。また、日本の実情に合わせて四季の移り変わりや行事、その土地ならではの風習を取り入れるなど、テーマを変えてもかまいません。大切なのは、発達領域とプロジェクトのテーマの繋がりを明確にしておくことです。

日本でピラミーデを導入している園を見ると、行事の多い日本の保育園・幼稚園では毎月1つのテーマをこなすのは難しいため、2～3ヶ月で1つのテーマを実践しているところもあります。

発達領域 Developmental area	プロジェクト Project	年少のテーマ遊び Theme Preschool	年中のテーマ遊び Theme Pre-kindergarten	年長のテーマ遊び Theme Kindergarten
個性の発達 Personality development	入園・進級の受け入れ方 Welcome	保育に受け入れる Welcome to preschool	保育に受け入れる Welcome to school	保育に受け入れる Welcome to school
時間の理解 Orientation of time	春 Spring	成長する！ Growing up!	外へ出よう！ Going outside!	春が来た Spring has sprung
空間の理解 Spatial orientation	空間について Space	僕と私の体 What do I look like?	ボディ・イメージ My body	空間を学ぶ In space
世界の探索 World exploration	水 Water	水と遊ぶ Fun with water!	家の中の水 Water in the house	外の水 Water outside
考えることの発達 Development of thinking	色と形 Color & shape	おもちゃ屋さんへ行こう To the toy store	スーパーへ行こう At the supermarket	商店街へ行こう At the outdoor market
言葉の発達 Language development	家庭 Home	私の家 I live here!	色んなお部屋 Rooms in the house	お引っ越し！ We're moving
時間の理解 Orientation of time	秋 Fall	雨と風 Rain & wind	葉っぱと種 Leaves & seeds	秋の天気 Fall weather!
考えることの発達 Development of thinking	数える Counting	クマの誕生日 Bear's birthday	私の誕生日 My birthday	お祝い！ It is a celebration!
言葉の発達 Language development	衣服 Clothes	何を着ようかな？ What shall I wear?	私に注目 Look at me!	私ってどういう人？ Who am I?
考えることの発達 Development of thinking	大きさ Size	ネズミの大きさ・ゾウの大きさ Mouse & Elephant!	大きくなる I'm growing!	旅に出よう Going on vacation
言葉の発達 Language development	交通 Traffic	家のまわり Around my house	通学路 My neighborhood	どうやって来る？ Are you coming?

●プロジェクトは次のような流れで展開されます。

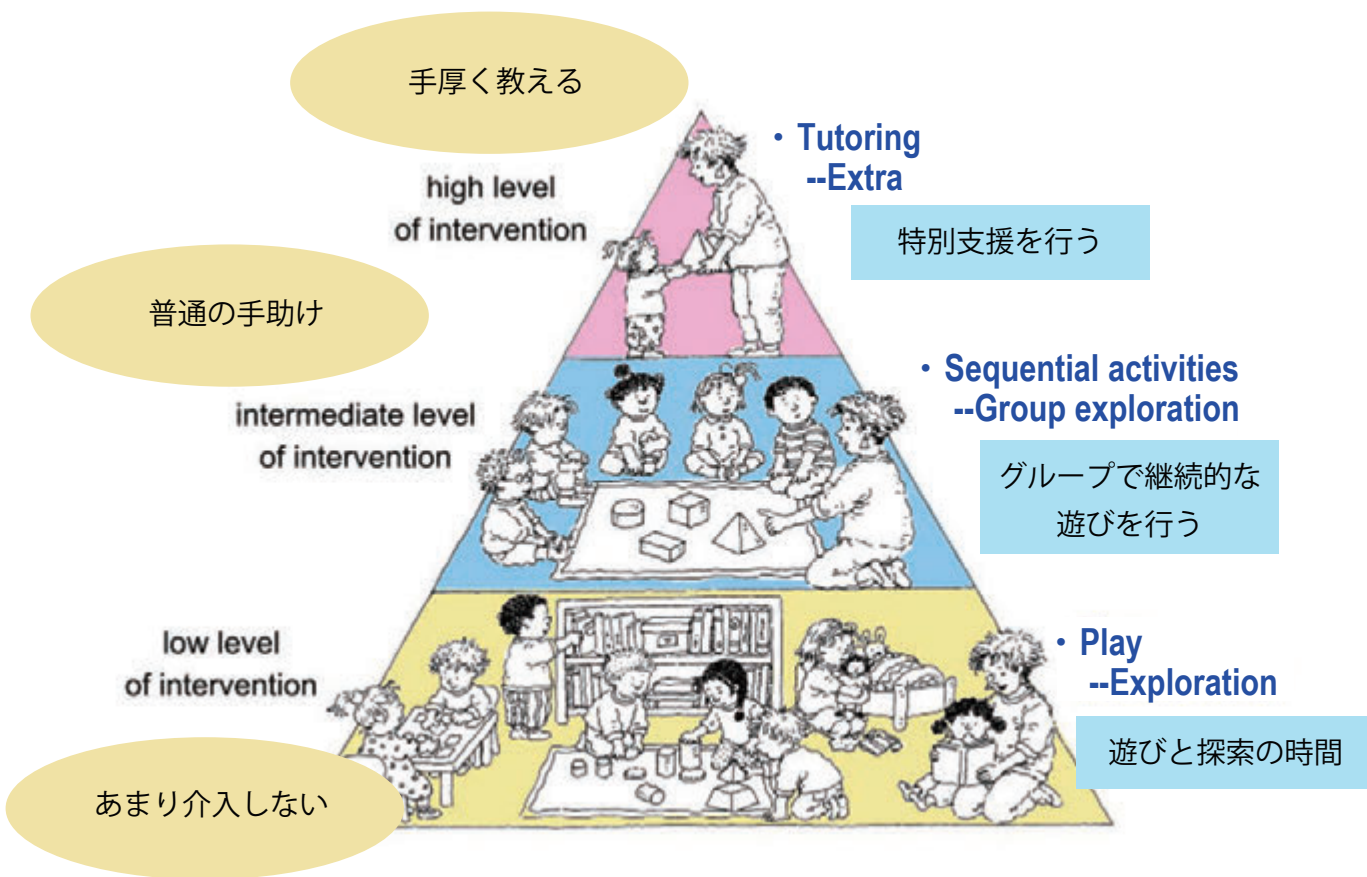
プロジェクトは特別な教え方ではありません。ごく一般に行われている保育活動に、準備された遊びと学び(プロジェクト)を取り入れたものです。子どもたちが登園してきて自由遊びを行います。自由遊びは、個々の子どもの遊びを観察する大切な時間です。

●自由時間が終わる 10 時頃に全員を集めたサークルタイムを行い、サークル状に集まった状態で、今日のプロジェクトの具体的な遊びを説明します。

●10 時からのサークルタイムの時間は、大まかに 30 分(年少)、40 分(年中)、50 分(年長)と行い、今日何をして遊ぶのかを確実に説明します。

●それから子どもたちは小さなグループに分かれてプロジェクトのための遊びを 11 時頃まで行います。

●グループに分かれた遊びの間を先生は歩いています。子どもたちが遊びを展開し、遊びのルールを十分に理解した段階で、特別支援の必要な子どもの指導を行います。



●プロジェクトテーマ『色と形』の展開の実例



〈積み木を使って色と形を学んでいます。
積み木の高さを自分の体を使って比べています。〉



〈お買い物ごっこから色と形を学んでいます。〉



〈プロジェクト幼児教育の要はテーマ展開です。
子どもの目に入るようにテーマ『秋』が
具体的に掲示されています。〉

●例えば、テーマ『誕生日』遊びから学ぶ、数える



●例えばテーマ『服』から言葉を学ぶ



●例えば保育室の空間から『数や大きさ』を学ぶ



Themen: Zählen und Größe



■テーマ展開は次の四つの段階で進めます

子どもたちにやる気を起こさせ関心を抱かせるためには、日常的な行動に引き込むことも必要です。毎日の日課に埋め込まれた4段階の学習過程「具体的に説明する。」「見本を見せる。」「理解を広める。」「理解を深める。」でこれらを行います。

これらの手順で、私たちは、子どもの経験に非常に近いところから始め、そして徐々に距離をとります（現実行動から具体的表現、抽象的概念まで）。これらの原則は、子どもを現実的な世界だけで遊ばせる保育者よりも、子どもを現実的な場所からより未来に向かって目を開かせようとする保育者に指導される子どもは、幅広い理解と洞察力を身につけることをシーゲルの距離論 (Sigel, 1993 年) で実証されています。

1. 具体的に説明する

- ・何をして遊ぶのか？目標をはっきりさせる。

2. 具体的に体験させる

- ・明確な実例を見せて、感覚的な体験をさせる。

3. 理解を広げてあげる

- ・同じところと違うところを見つけさせ
体験を言葉にさせる。

4. 理解を深め抽象的な理解に誘う

- ・他の経験と比べさせる。
イメージで表現させる。

保育者や保護者の役割は、目の前の現実や目の前にないもの提供することです。そして計画、将来事象の予測、過去の再構築、そしてアイデアの移動に子どもたちを巻き込みます。

子どもたちは目に見えない事象に対処し、以下のステップ (Van Kuyk, 2003 年) の学び方を通して、目の前にないものを現実的に説明できる力を身に付けます。

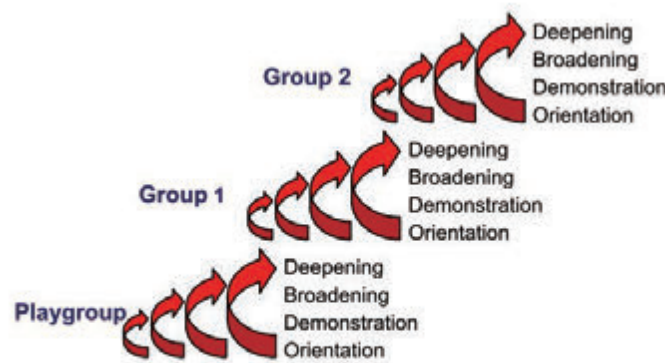


Figure 10 Short- and long-term cycle in the Pyramid projects

〈具体的に説明する、具体的に体験させる、理解を広げてあげる、理解を深めてあげる。四つの段階を踏む考え方は、動的心理学理論を根拠にしています。〉

●第1段階：具体的な説明をする

これから遊ぶことの楽しさの雰囲気をつくりだします。

- ・絵本の表紙を見せて遊びに引き入れます。
- ・描写を見せ、子どもを反応させます。
- ・物語を語り、子どもを支援します。



●第2段階：見本を見せてあげる

- ・絵本の概要をよく知らせる（概念の重点を明確にする）
- ・子どもの経験したことなど身近な事柄から問いかける
- ・相手の答えを導く問いかけをする
- ・困難な概念を説明する
- ・特徴をうまく使いながら相互に読み聞かせる
- ・子どもに出来るだけ多くの感覚を使わせる
- ・対象物の重要な特徴を紹介する



●第3段階：理解を広げてあげる

- ・異なる物語とつなげて考える
- ・物語の概要に集中する
- ・物語の読み聞かせによる相互作用
- ・子どもの体験と比較する
- ・物語と異なる部分をつなげて読む
 - 何が起こる？
 - 何が起こりそう？
- ・理解し難い概念を明確にする
- ・物語と自分の経験をつなげたり、比較したりする
- ・その物語と他の本とをつなげたり、比較したりする



●第4段階：理解を深めてあげる

- ・物語の道すじと関連するものを強調する
- ・子どもに絵を描かせながら、本の物語を話させる
- ・何度も本を読み、距離をおいて尋ねる
 - 「どうしたらいい？」
 - 「何が出来た？」
 - 「何を思った？」
 - 子どもに考えさせる
 - 原因と結果のつながり
 - 意味と目的のつながり
- ・他の問題と他の本のつながりを考えさせる

